



六甲山魅力再発見市民セミナー

市民セミナーVol.38
鳥の渡りと六甲山での鳥類標識調査/山根みどり
2006年5月発行

第38回テーマ： 鳥の渡りと六甲山での 鳥類標識調査



六甲山で繁殖する夏鳥
(キビタキ)



講師：^{やまね}山根 みどりさん

プロフィール

1979年神戸市外国語大学卒業。経済・金融関連の翻訳と環境アセスメント会社の鳥類調査員をしている。1992年より、(財)山階鳥類研究所標識研究室の協力調査員として活動。

講演内容

- ①六甲山と渡り鳥
- ②鳥類標識調査について
- ③鳥の渡りのふしぎ

実施日：平成18年5月20日(土)
午後1時～3時45分

場所：六甲山自然保護センター内
レクチャールーム

新たなスタートラインに立つ

午前中は総会を行いました。活動5期目となり、設立期を終えて構築期に入りました。本格的に活動が進み出しています。会員主導型の活動を展開し、六甲山をみんなで盛り上げようと呼びかけました。午後からの市民セミナーには、30名の熱心な参加者が集まりました。

山根さんはボランティアバンダー

講師の山根みどりさんは鳥類標識調査員(バンダー)で、現在六甲山上にある「六甲山YMCA」の敷地内において、ボランティアで調査活動をされています。鳥類標識調査とは、1羽1羽の鳥が区別できる記号や番号がついた標識(足環)を鳥につけて放し、鳥の移動や寿命について正確な知識を得る調査をいいます。

スライドを用いて、六甲山で繁殖するオオルリ、キビタキ、カヤクグリなど、鳥の渡りについての調査データを解説していただきました。山根さんの気さくなお人柄には親近感がわきました。初心者にもわかりやすくお話いただき、野鳥への関心を高めました。



熱心な参加者が集まる

主催：六甲山自然保護センターを活用する会
協力：兵庫県立人と自然の博物館
後援：兵庫県神戸県民局 灘区役所 神戸市教育委員会

渡り鳥の謎に興味津々

鳥の渡りには、まだ多くの謎があり、繁殖地や越冬地がどこかわからない鳥がたくさんいるそうです。調査によって六甲山上を渡る鳥の種類が徐々に明らかになっています。意外な調査結果には驚きも多く、参加者の質疑応答も活発でした。

六甲山で上を向いて歩こう

今回のお話で専門的な鳥の調査が六甲山で行われていることを知りました。散策道で空を見上げて鳥の様子を観察する楽しみが増えました。

六甲山は渡り鳥にとって重要な場所であり、人にとっても重要な環境です。六甲山のあり方についてじっくり考えていきたいと思えます。

※詳しくは、1. 2ページをお読みください。

参加の感想 溝渕 正昭さん

定点での長期にわたる鳥類標識調査が様々な事実を示す事に感心しました。種類により渡りの期間・ピーク等が異なる、渡りの時季も環境の変化などに微妙に影響を受け変化する事など。また、シジュウカラガンを再び日本の冬鳥として復活する活動なども興味深い話でした。

自分もバードウォッチング案内、野鳥のブローチやストラップ作り、また六甲山自然保護センター周辺での定例植物観察会などの活動をしています。今回のお話を活用させて頂きたいと思えます。



【助成金をいただいている機関】

(財)大阪コミュニティ財団(東洋ゴムグループ環境保護基金)、コベルコ環境保全基金、ひょうご環境保全創造活動、コープこうべ環境基金